

明治大学に入るキッカケと大学時代前半について

古里は静岡の三島の近くの函南町である。兄弟3人の末っ子として生まれた。実家は函南では、まあ大きな農家であった。長兄が地元の農業高校から努力して、東京農大に入った。次兄とは年子であり、私は高校については進学校より自分の学力にあった三島の高校(三島南高校)に進学した。長兄の影響で農学部のある大学に進学したいと考え、その中でも化学が出来る農芸化学を希望して受験勉強に励んだ。次兄が浪人した為、二人が同時に大学受験をすることになった。

私は私立の三つの大学を選び、そのひとつが明治大学の農学部農芸化学科であった。首尾よく二大学に合格出来た。迷うことなく明治大学を選んだ。

私達が入学する昭和45年は物価も安かったが兄弟三人が一時でも、私大にいったので、かなり実家の家計も大変であったものと思う。函南・三島には18歳まで住み、東京に行くことになった。長兄が東京農大の近くの小田急線の経堂に住んでいたので、兄弟3人で下宿で1年間過ごした。当時小田急の経堂から20円で下北沢ぐらいまで行けた。また、ラーメンは20円、銭湯は確か40円ぐらいの料金であった。

入学時はちょうど‘70年安保改定闘争の時であった。当時学生運動にはまったく興味がなかった。いわゆるノンポリである。明治大学の農学部・工学部は小田急線の生田駅から歩いて20分ぐらいの山の上にあった。生田駅から歩いて坂を登りきると工学部の校舎と学生会館と食堂等がみえ、進むと図書館があった。まっすぐ行くと農学部の校舎があった。私は4年間、この生田の山で青春時代を過ごした。

4月に新入生オリエンテーションガイダンスがあり学生生活が始まった。クラブ活動・同好会の勧誘があり、理科部連合会の応用微生物研究会(通称“応微研”)に入会した。5月の連休前に応微研主催の新入生歓迎コンパが、校舎のキャンパスでありコンパ恒例の酒の回し飲みがあった。飲めない酒を勧められ、気が付けば先輩の下宿であった。そんな楽しい思い出があった。それからは皆でよく校歌・デカンショ節・東京音頭の変え歌等覚えさせられた。

5月には図書館の通りの八重桜が綺麗咲いているのが、思い出す。当時は“70年安保の影響で講義が休講になるのが多かった。学校の帰り生田の駅の近くで、友人とマージャンをしたが、並べる程度であまり興味が無く上達はしなかった。何とか人並みには打てるようになった。

夏休みになり実家からガソリンスタンドでアルバイト等した。そのころ1リッター当たり40円ぐらいと記憶している。休みは2ヶ月以上あった。バイトして応微研の合宿代・旅行代を稼いだ。1年生の応微研の合宿は瀬戸内海の大三島のお寺を借りて自炊する事により仲間意識・連帯感を先輩・後輩作っていった。しかし、その当時の部活の内容はまったく覚えていない。皆で合宿中は規則正しく生活をして、海に入ったり、近くの観光をしたりしてのんびり過ごした事が思いだせる。

秋になると後期試験があり真面目に勉強した記憶がある。11月に生田際があり研究発表結果を模造紙に書いて、発表した。その時1年生は構内の模擬店の手伝いをさせられた。理科部連合会の指定の場所にテントを張り、焼そば・フランクフルト等売った記憶がある。学園生活では六大学野球・ラクビーの試合の応援は生田・住んでるのは経堂だったが、あまりいかなかった。4年間で六大学野球が3年生の秋期の大会で優勝して新宿までのちょうちん行列に参加した。

冬は大学の入試があり、早く講義が終わって1月から休みの思い出がある。
今回は1年生のときの出来事を中心に思いつくまま書きました。次回続きを投稿させていただきます。